

平成 21 年 5 月 8 日現在

研究種目：基盤研究（B）  
研究期間：2006～2009  
課題番号：18390594  
研究課題名（和文） 排卵誘発剤を使用する女性が安楽に安心して過ごすためのセルフケア支援モデルの効果  
研究課題名（英文） Effect of self-care support model to make woman who uses fertility drug comfortable and relieved

研究代表者  
森 明子(MORI AKIKO)  
聖路加看護大学・看護学部・教授  
研究者番号：60255958

研究分野：医歯薬学  
科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学  
キーワード：医療・福祉，看護学，ストレス，薬理学，生殖医療

#### 1. 研究計画の概要

本研究は、排卵誘発剤を用いた不妊治療を受ける女性のセルフケア支援モデルを開発し、自己管理、健康関連 QOL、不安・抑うつを指標として、その効果は無作為比較試験により、明らかにするものである。

#### 2. 研究の進捗状況

研究目的を達成するため、4つのステップを踏みながら進めている。

(1)患者および医師、看護師に対するインタビュー

排卵誘発剤を使用する女性患者6名から使用中の症状や対処について聞き取りを行った。医師3名、看護師2名からは排卵誘発剤の使用にあたり治療上、看護上のポイント、留意点、工夫などの聞き取りを行った。

(2)効果測定のための調査票の作成

インタビュー結果や文献検討を踏まえて、排卵誘発剤を用いた治療を受ける女性の症状や対処に関する調査票を作成した。しかし、在宅自己注射が認可され、これに伴う自己管理やその指導に対する臨床的なニーズが高まることが予測されたため、在宅自己注射に焦点を絞ることに決め研究計画を軌道修正した。既存の研究文献や臨床状況の情報収集によって検討し直し、在宅自己注射の「自己管理達成度」を測る調査票(41項目)を作成した。信頼性・妥当性を必要とするため、8施設でサンプル数100名の予定で現在、調査続行中である。

(3)セルフケア支援モデルの開発

インタビュー結果や文献検討を踏まえて、排卵誘発剤の在宅自己注射におけるセルフケア支援モデルを検討した。これに使用する視

聴覚教材 DVD「安心して行える排卵誘発剤の在宅自己注射」ならびに治療周期中の自己管理を記録するためのセルフチェックノート「i-メモリー」を開発した。

(4)セルフケア支援モデルによる介入と効果測定

自己管理達成度、健康関連 QOL、不安・抑うつを指標として、セルフケア支援モデルによる介入の効果は無作為比較試験により、明らかにする。

#### 3. 現在までの達成度

やや遅れている。

(理由)

研究期間中に排卵誘発剤の在宅自己注射が認可され、研究課題の背景に直接関与する大きな変化があり、支援モデルや質問紙開発の見直しを余儀なくされたこと。しかし、フォリスチムは普及途上にあり使用者はまだ少なく、治療周期後に回答を得る手順のため、一人の協力者の調査に約3週間要することから解析可能なデータ数に達していない。

#### 4. 今後の研究の推進方策

十分な数の調査票は各調査施設に依頼済みなので、該当者(対象者)をもれなく、確実にリクルートしてもらうよう、いっそうの協力を求める。6月から支援モデルによる介入研究に取りかかる。研究内容の変更は行わず、当初の計画で進める。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

森明子、有森直子、排卵誘発における在宅  
自己注射指導管理、EB NURSING、  
9(1):44-51、2009、査読無

〔学会発表〕(計0件)  
本年度2件予定(日本生殖看護学会に4月エ  
ントリー済み、日本生殖医学会に6月エ  
ントリー予定)